

アカガイの増養殖に関する研究

I アカガイの天然採苗試験

1 浮遊幼生調査

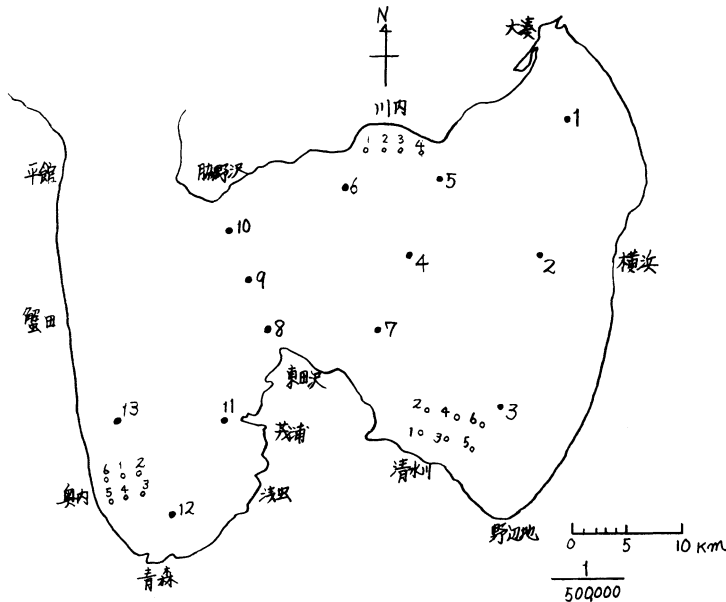
菅野 溥記・小川 弘毅・武田 雷介※

序 言

アカガイの産卵時期、産卵規模、浮遊幼生の出現状況等を把握するために本年もこの調査を実施した。この調査をもとにして、能率的なアカガイ天然採苗をすることを目標とした。

方 法

各調査点とも、ウイングポンプにより海面下5, 10, 20, 30, 40 mの各層から20 lの海水を汲みあげ、100μの篩絹でろ過した後アカガイ浮遊幼生を検鏡し、その大きさと数を測定した。



第1図 調査地点

※武田 雷介：現在兵庫県水産業改良普及員 州本農林事務所駐在

調査場所と時期

奥内……昭和43年8月12日、8月23日、8月28日の3回

清水川……昭和43年8月14日の1回

川内……昭和43年8月23日の1回

全湾……昭和43年8月13日、8月22日、8月26～27日の3回

結果と考察

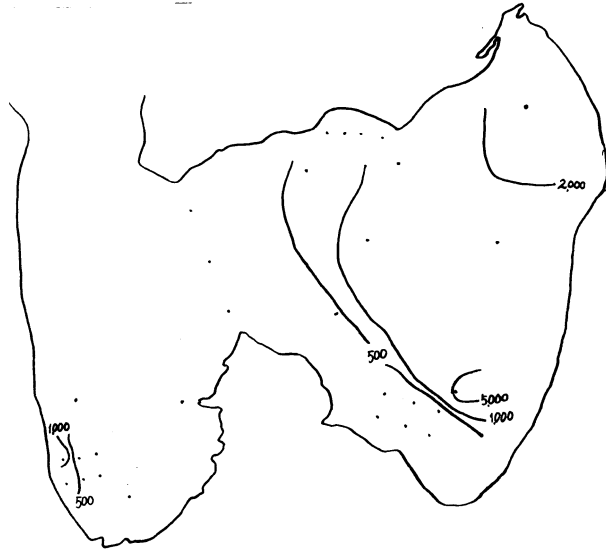
(1) ラーバーの分布状況

ラーバーの分布状況を第2～4図に示した。第2図からラーバーは陸奥東湾にトン当たり（以下同じ）5000、2000個と濃密であり、奥内沖においても1000個と多かった。8月22～23日には第3図のように全体として出現量は少なくなっていた。奥内沖の500個が最も多い。

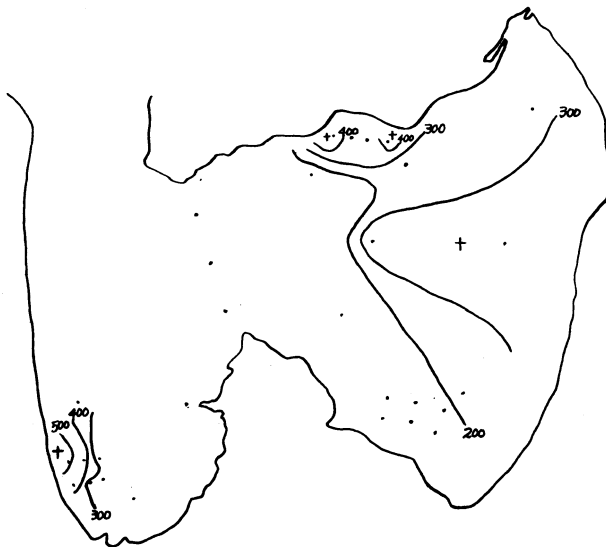
さらに時期が進んで8月27～28日には第4図のようになり奥内の500個が最高であった。

一般的に陸奥東湾での分布範囲が広く見られており、時期が進むにつれて密度は低くなっていた。密度が低くなるのは自然へい死、流出、他の生物により食べられる等のためと思われる。

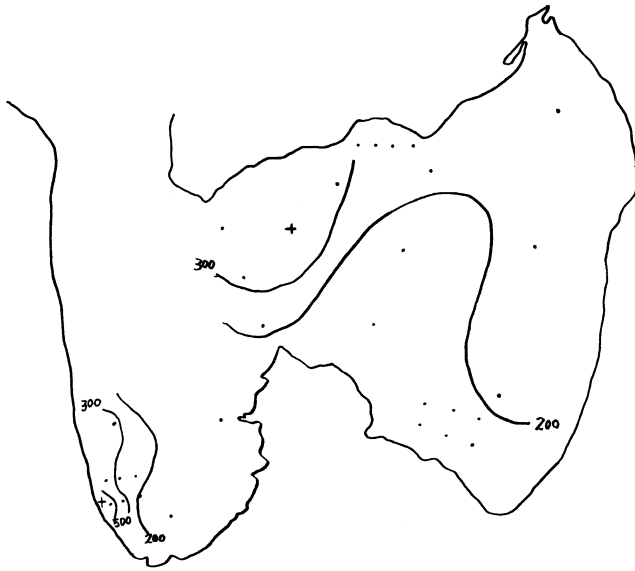
昨年と比べると、初期のラーバーは昨年よりかなり多い出現量となっていたが、後半になるにつれてむしろ昨年より少なくなった。



第2図 ラーバーの分布状況（昭43.8.12～14）



第3図 ラーバーの分布状況（昭43.8.22～23）



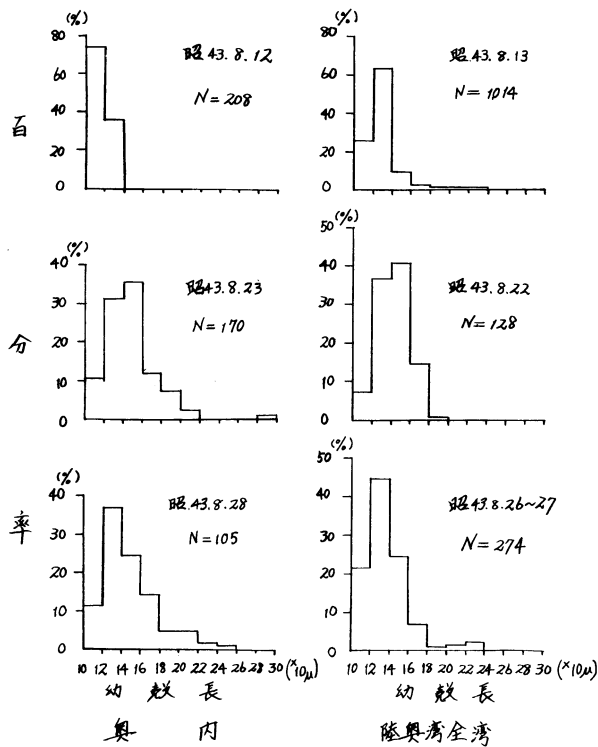
第4図 ラーバーの分布状況(昭43.8.27~28)

(2) ラーバーの殻長組成の変化

ラーバーの殻長組成について、奥内、全湾の変化を第5図に示した。

8月12~13日には100~140 μ のものが殆んどであり、産卵後10日前後のラーバーが多く、昭和43年の産卵は7月末から8月上旬にかけて行なわれたものと推定できる。

8月22~23日には140~160 μ のラーバーが多く、8月26~28日になると200 μ を越えるようなラーバーが若干見られたが、殻長の移動はスムーズではなかった。



第5図 ラーバー殻長の時期的変化